Ｏ－５

電話診療時の処方への対応

〇本田　雅巳[1)]、上武真佐恵[1)]、高橋勇貴[2)]

1）獨協医科大学病院薬剤部
2）獨協医科大学病院
地域連携・患者サポートセンター医療連携部門
兼　総合がん診療センターがんゲノム診療支援室

2019 年 12 月に武漢市で発生した新型コロナウイルスは、2020 年 1 月 16 日には日本国内初の感染者が報告された。3 月 1 日 厚生労働省はそれまでの集団感染事例から、「3 つの密」を避けるよう勧告した。その後、3 月 13 日 「改正新型インフルエンザ等対策特別措置法（新型コロナウイルス特措法）」が成立した。こうした中、すでに 2 月 28 日には「新型コロナウイルス感染症患者の増加に際しての電話や情報通信機器を用いた診療や処方箋の取扱いについて」が発出され、対応の留意点がまとめられた。これを受けて当院でも、3 月 13 日には電話診療による投薬を開始したので、その過程と現在までの状況を報告する。

Ｏ－６

当院における植込み型補助人工心臓装着患者のドライブライン貫通部管理方法の検討

〇大島　小緒里、渡邊　雅弘、亀山　友理子、
菅沼　良恵、水沼　由美子、青柳　恵子

獨協医科大学病院看護部

植込み型補助人工心臓のドライブライン（以下 DL）を側腹部から貫通させる場合、ドライブライン皮膚貫通部感染症（以下 DLI）のリスクが高い。DL を側腹部から貫通させた症例の管理方法の妥当性を検討した。

対象は DL を側腹部から貫通させた患者 7 名で、DL 貫通部の管理方法や看護師の関わりについて電子カルテより情報収集し分析した。2016 年以降はシャワー浴や微温湯による洗浄を中止しヘキシジンでの消毒のみへ変更した。その結果、3 例の患者では DLI の発症はない。

処置方法の変更後 5 年経過し DLI の発症がないことから、現行の管理方法が妥当であることが示唆された。退院後、コアナースが外来受診時に DL 貫通部の状況や手技などを確認し対応することで、患者が自己管理を継続でき、DLI の予防に繋がった。